
ボーイズ ワンダフルライフ

鬼蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボーイズ ワンダフルライフ

【Nコード】

N0533F

【作者名】

鬼蝶

【あらすじ】

アニマル ワンダフルライフの番外編です。アニマルの次は・・・？

第1話 何かが起こる！！（前書き）

アニマル ワンダフルライフの番外編です。

第1話 何かが起こる!!

メガネ、それは俺の体の一部。

メガネ、それは・・・

「メガネー!!おはよう!!」

俺のニックネームである。

「あのさ、メガネって言うの止めてくれないかな? 遼太くん。俺に
もちゃんと、香坂 樹こうさか いつきっていう名前が・・・。」

「いーじゃん!!メガネなんだし。」
良くない。

「せめてさあ、M E G A N Eとかさあ・・・。」

そう言いながら、俺はずれた眼鏡を押し上げた。

「そんな事より、先生が呼んでる。」

そんな事より、だあ?

俺は膨れながら、職員室に居る、担任の所に向かった。

「香坂、これは一体、何なんだ?」

そう言つて、先生がカバンから取り出したのは、犬の人形(にして
は、やけにリアルだなあ。)だった。

「犬の人形ですね。」

「そうだ。じゃなくて、これお前のだろ?」
は・・・?

「違いますよ。」

「嘘をつけ。」

「ホントですって!!」

見た事ねーもん。

「お前の靴箱に、入っていたんだ。」

「はあ?なんで?」

「んなもん、私を知る訳ないだろう?お前のじゃないのか?」
俺はしばらく考えた。

・・・やっぱ、知んねえ。

「取り敢えず、お前が処分しろ。」

先生は俺にその人形を、押し付けた。

「嫌ですよ。」

俺は押し返した。

「お前の靴箱に、入ってたんだ。お前が処分しろ。」

先生はそう言つて、俺に無理矢理に押し付けて、逃げていった。

「マジかよ・・・。」

第2話 メガネは体の一部なんだ！！馬鹿にすんな！！

「どうしよう、この人形。」

俺は家に帰りながら、人形を凝視した。そして、ふと横を見ると・・。

「ゴミ箱・・。」

があつた。俺は何の迷いもなく、人形を捨てた。

「おい。」

俺は辺りを見渡した。

誰も・・居ないよな？

「こつちじゃ。」

俺はゴミ箱を覗いた。

「この人形が喋つたのか？」

んな訳、ねーよな。うん、ねーよ。

「わしは人形ではないぞ。いぬが・・。」

俺はゴミ箱の蓋を閉めた。

「俺、頭でもぶつけたかな？」

「なぜに、閉めるんじゃ！？」

人形が俺に飛び掛かってきた。

「なんで、人形が喋るんだよー！！」

俺は人形を叩いた。

「人形ではない！！犬神様じゃ！！まったく、どいつもこいつも！！」

コイツ、鬱陶しいなあ。つか、何だよ犬神様って。

「どいつもこいつも？つか、何なんだ？お前・・？犬神様って？」

「いっぺんに、質問するでない！！馬鹿野郎！！」

・・ムカツ

「何様のつ・・。」

「お前今、わしを捨てたじゃろ？」

無視か、コラ。

「あー・・・捨てた、捨てた。」

「わしは、お前を呪うぞ？」

勝手に俺の靴箱に入ってた、お前が悪い。

「どうぞ、ご勝手に〜？」

「この、馬鹿面ばかつらメガネ。」

・・・ば？

「お前今、何だった？おい、クソ犬！！殺やられてーのか！？ああ！？」

馬鹿面は許せるが、メガネだと！？

「どうなっても、わしや知らんもんねー！！」

犬は舌を出しながら、空へ飛んでいった。

第3話 ふおおおおおお！！

うっぜー！！マジうぜーよ、あの犬！！

次の日、俺は小石を蹴りながら、学校に向かった。

「おはよー。」

って、は？

俺は教室に入った瞬間、足が止まった。

「・・・。」

ドアを閉めた。

何だ？今のむさっ苦しい教室風景は？

「おはよー。」

俺は改めて、教室に入った。

「あ、メガネ！！おはよー！！」

「遼太・・・これは一体、どういう事だい？」

「は？どういう事って？いつもと変わんないよ？」

何処が？何処が変わってないっていうの？

「女子は？」

女子が・・・いない！！ふおおおおおおおお！！

あの、女子の戯たわむれている姿・・・俺の目の保養になっていた・・・

のに！！

「女子？普通にいるじゃん。其処に。」

「何処？あの無駄にガタイが良く、むさっ苦しい奴等の何処が、女子！？」

ただの筋肉の集まりではないか！！

「何言ってるの？お前。」

お前の方が、何言ってる・・・？

ああ・・・筋肉の集まりが、こっちに来る！！

「メガネ君、ひどーい！！聞こえたわよお？むさっ苦しいなんて、超ー失礼！！」

気持ち悪い！！！！！！！！！！カマ（オカマ）—————

！！！！！！！！

「つて・・・望月^{もちづき} 千里^{ちさと}？」

「何？変なメガネ君！！」

嘘だろおおおおおおお！？クラスのマドンナ、千里ちゃんが・

・あんな姿になり果てて！！ああ、さようなら！！俺の青春！！

「あの、可愛かった千里ちゃん、カムバック！！」

・・・つて、待てよ？

「わしは、お前を呪うぞ？」（エコー）

「わしは、お前を・・・？」（エコー）

「わしは、お・・・？」（エコー）

アイツか————！！あの、クソ犬の所為かああああ！！

「ふざけんなよ！？」

道理で朝から、男しか居ねえと思ったんだよ！！つて事はなんだ？

今、世界中、何処見渡しても、男しか居ねえつか！？

「ぎゃあああああああ！！俺まだ、大人の階段、上ってねーぞお

！？どうしてくれんだよ！？」

第4話 犬って、食えんのかな？

俺の人生、終わった。

「おい、大丈夫か？」

「遼太くん、俺の人生は終わったよ。」

女子がいない人生なんて……。 (どれだけ女子に執着心、抱いてんだよ。)

「人生……。？」

これは……。ドッチボールをしていて、ボールがメガネに直撃して、メガネの（メガネが落ちないようにする為の鼻の所にある丸い留め具、名付けてピッタン）が鼻に喰い込む以上に痛くて、悲しいよ。俺は少しでも自分を励まそうと、大好物の焼きそばパンを購買に、買いにいった。

……。なかった。

おおよよよよよよ。ホントにO R Eの人生、終わったかも……。

ドンッ！！

あ……。なんか人にぶつかった。これが女子だったら人生、捨てたもんじゃないのに……。

カッティーン……

あ……。なんか今、めっさ嫌な音がした。

俺は即座に床を見た。

ああああああああ！！メガネが！！俺の大事な、体の一部が！！

「おい！！」

俺はぶつかった相手を、呼び止めた。

「おっ前、どーしてくれんだよ！！今、俺の大事な体の一部が、床にカッティーンって！！これは、運動会のリレーで走るのに夢中すぎて、大切なメガネのレンズをどっかに落っことしてきたのを気付

かなかったのに、1位を取った時の切なさだぞ！！（意味わかんねーよ。）大切な体の一部とは、一緒に感動のゴールがしたいんだよ！！はあ・・・これで、完璧に俺の人生が終わった・・・。」

「は？」

呼び止めた相手は、ポカーンとしていた。

「ああ、もう行って貰って結構ですよ？すみません、取り乱しちゃって。」

「・・・？」

全部、あのクソ犬の所為だ。アイツ、食えんのかな？

第5話 親近感・・・？

「あの・・・好きです、付き合ってください。」

な・・・なんですとおおおおおお！？

今、俺が・・・恋愛に縁のなかったこの俺が、告白されています！！
「ダメ・・・ですか？」

男から。

「ダメです！！」

俺はBダツシュ並みの速さで逃げた。

ホントは嬉しいんだよ？だって、元は女なんだから。

でも、今は男だし！！（詳しくは第1〜3話参照）

「俺は、ホモじゃないですからー！！」

てか、もう訳が分からないですからー！！

PLEASE HELP ME！！

ドンツ！！

「うわ！！」

今日はよく人にぶつかるな・・・って、メガネが！！

俺は足で、メガネをキャッチした。

「セーフ・・・ってあれ？」

この人、焼きそばパンを買いにいった時にぶつかった人（第4話参照）だ。

「う・・・メガネザル！！」

メ・・・メガネザルだと！？

「じゃなくて、スイマセン！！」

「お、おお。」

「では、これで。」

そう言つて、焼きそばの人（おい、おい。）は急いで去ろうとした。
「ちよつと、待って。」

俺は焼きそばの人を引き止めた。

「名前、教えてよ。」

その人は顔を引き攣らせながら、こっちに振り返った。

「斎宮 侑生です。」

「斎宮でいいか？俺は・・・。」

斎宮は俺が名前を言う前に、そそくさと去っていった。

あんなに急いで・・・何か用事でも、あるのか？

俺はなぜか、斎宮に親近感を抱いた。

つか、メガネザルって・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0533f/>

ボーイズ ワンダフルライフ

2010年10月8日12時29分発行